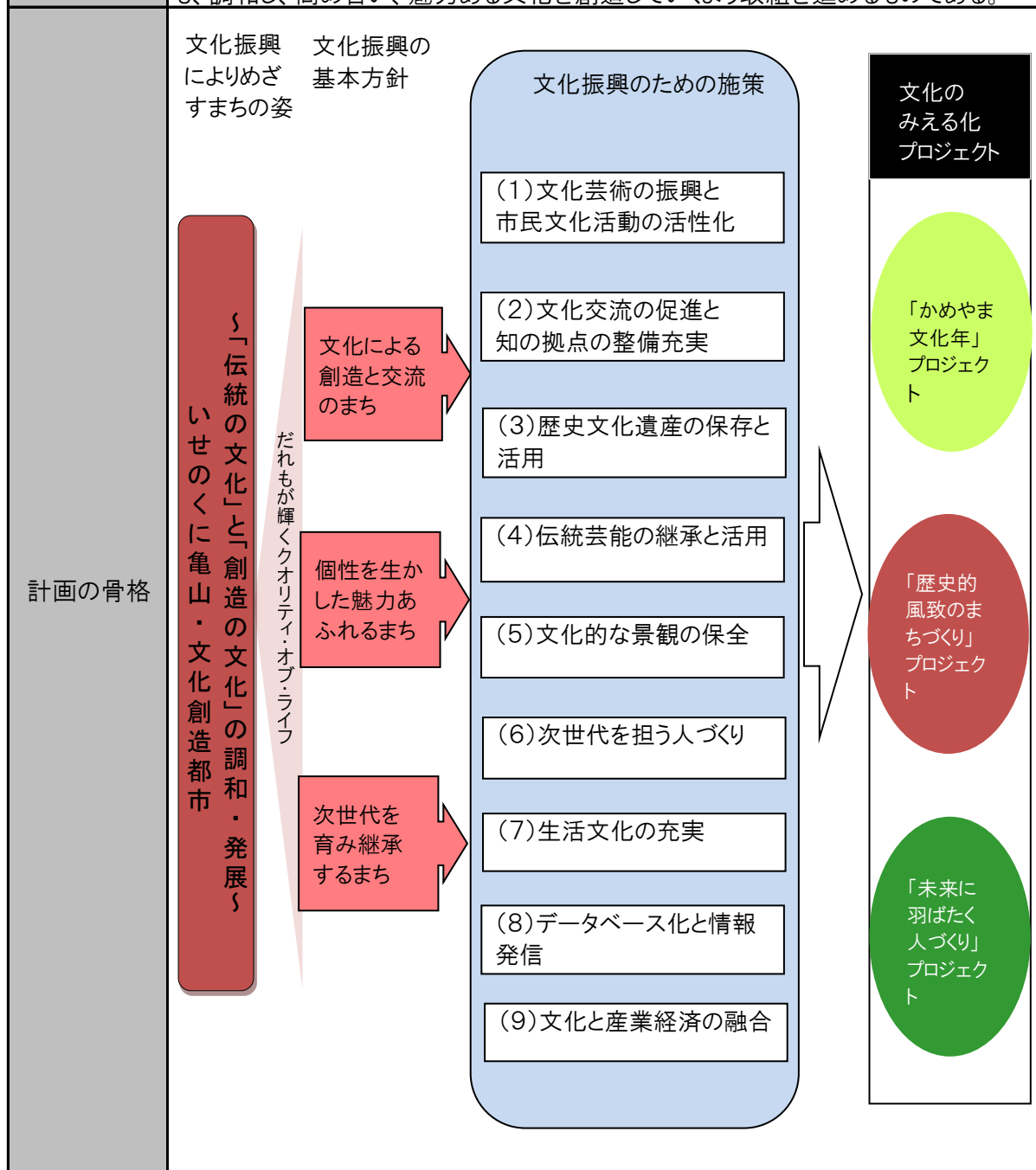


亀山市文化振興ビジョンに関する実績等報告書(平成29年度)

(生活文化部 文化スポーツ課)

■計画の基本情報

計画期間	H 23 ~ H 33 年度
位置付け	本ビジョンは、文化芸術基本法に基づき、地域の特性に応じた文化芸術に関する施策の推進を図るため、文化施策の方向性を体系化して示した文化施策分野にかかる計画として位置付けている。また、第2次亀山市総合計画前期基本計画との関連は、基本施策「文化芸術の振興と文化交流の促進」と深く関わものである。
目的・概要	すべての人が文化によって心豊かな生活を営むことができ、幸福を実感することができるまちづくりが求められている。本ビジョンは、これまで培われてきた伝統の文化を継承・発展させ、さらに磨きをかけることにより、それらの輝きが個性を持ちながらも、調和し、高め合い、魅力ある文化を創造していくよう取組を進めるものである。



■ 成果指標

成果指標名		単位	現状値	目標値	実績値 (H29)
1	なし				
2					
3					
4					
5					

■ 計画の実績等

取組実績	<p>「かめやま文化年2017」では、「つながる」をキーワードとして、交流・継承・人材育成の3つの視点で5つのテーマ(歴史、あかり、くらし、音楽、芸術)を設定し、さまざまな事業を行った。</p> <p>岡山県高梁市との文化交流事業や地場産業である「ろうそく」を用いた棚田あかり、お茶の魅力に触れる茶摘みと茶づくり体験、市内東海道の3つの宿場でのコンサート、現代美術の祭典である「亀山トリエンナーレ」など、文化年の実行委員会が主体となって行う「企画事業」と民間団体等や市の他の実行委員会が主体となって行う「関連事業」を多数行った。</p> <p>また、市美術展では例年開催している5部門の作品募集と入選作品の展示のほか、特別展として「中村晋也・上田秀洋 二人展」を開催した。</p>
成果	<p>「企画事業」と「関連事業」など、各事業間の連携を図ることで、「かめやま文化年」として相乗効果を高めることができた。</p> <p>岡山県高梁市との文化交流や、若手芸術家がたくさん参画した「亀山トリエンナーレ」、その他各種イベント等で「つながる」を常に意識して取り組むなかで、異なる文化や地域と地域のつながりなど、新たなつながりを生むことができた。</p> <p>また、学校等でも地域の伝統芸能や技術等を学ぶことを通して、地域の人との交流を行い、世代間の交流の促進につながった。</p>
総合計画推進への寄与度	<p>「かめやま文化年2017」を通して、個人や団体等が相互に交流・連携し事業等に取り組んだ。</p> <p>また、亀山市美術展の特別展において、伊賀市、甲賀市、亀山市の「いこか連携プロジェクト」の取組の一環として、亀山市美術展と甲賀市美術展の入賞作品の展示を行うなど、市内外の交流を積極的に行い、文化交流の促進につながった。</p>

反省点・課題	<p>「かめやま文化年2017」で生まれたつながりを継続させ、各文化団体や市民ネットワーク等のつながりを深めるとともに、より多くの市民が文化に関われる機会を増やしていく必要がある。</p>
--------	--

今後の方向性	<p>3年に1度となる次回の文化年プロジェクトにつなげるため、「かめやま文化年2017」を検証するとともに、文化交流等を継続して行い、市民が文化に関われる機会を増やすため、事業やイベント等の検討を行う。</p>
--------	---

(1) 文化芸術の振興と市民文化活動の活性化

施策項目	施策の内容	担当G	関連部署・関連団体	平成29年度の計画（具体的な取り組み内容）	(1) 平成29年度の実績	(2) 今後の課題	(3) 平成30年度の計画（具体的な取り組み内容）
①文化芸術の振興	文化芸術に関する広報啓発活動の充実	文化共生G		引き続き、市内で開催される文化に関する行事やイベントの後援を行い、開催内容をホームページ等で周知する。また、国や県からの助成制度についても、関係団体に周知するとともにホームページへの掲載を検討する。	文化に関する行事やイベントの後援を行い、開催内容をホームページ等で周知した。また、国や県からの助成制度についても、関係団体に周知した。文化に関する行事・イベントの後援件数：14件	市のホームページ等を有効に活用し、文化に関する行事やイベント等の情報発信を積極的に行う。	引き続き、市内で開催される文化に関する行事やイベントの開催内容や、国・県からの情報を広く周知する。
	文化芸術に関する講演会などの開催	文化共生G		今後も文化関係団体と連携し、文化芸術の振興につながる講演会等を開催する。	亀山市美術展の開催期間中に、造形作家による特別講座を開催した。特別講座：「彫刻とろうそくのワークショップ」参加者数：45名	市民が興味を引き、参加したくなるような文化芸術の振興につながる講演会を企画する必要がある。	今後も文化関係団体と連携し、文化芸術の振興につながる講演会等を開催する。
	文化芸術に関する講座、教室の充実	社会教育G	亀山市立中央公民館	生涯学習計画に基づき今後も、地域の歴史をテーマとした講座を継続的に実施していく。	サンデーストーリーの「亀山の歴史遺産」や出前文化教室など、14の歴史関係講座を実施した。	生涯学習計画に基づき地域の魅力発信を図るため継続的な実施を行う。	生涯学習計画に基づき今後も、地域の歴史をテーマとした講座を継続的に実施していく。
	参加体験型の文化芸術事業の推進	文化共生G	(公財) 亀山市地域社会振興会	文化会館の自主文化事業として、参加・育成型の文化芸術事業、またアウトリーチを継続するよう支援する。	亀山市文化会館の自主文化事業として、市民や市内の文化芸術団体が参加できる参加・育成型の事業や、小・中学校等へアウトリーチが実施された。参加・育成型の自主文化事業開催数：16事業	将来の文化を担う人材の育成のため、引き続き、市民参加・育成型の事業を実施する必要がある。	文化会館の自主文化事業として、参加・育成型の文化芸術事業、またアウトリーチを継続するよう支援する。
②優れた文化芸術に触れる機会の提供	さまざまな年齢層に配慮した、多様なジャンルの文化芸術事業の推進	文化共生G	(公財) 亀山市地域社会振興会	文化会館の自主文化事業として、多様なジャンルの文化芸術事業を実施するよう指示・支援する。(クラシック音楽、演歌、子ども向け催し物、コンサート、映画など)	亀山市文化会館の自主文化事業として、音楽や子供向けの催し、コンサート等が実施された。自主文化事業開催数：23事業	優れた芸術文化に触れる機会として、引き続き多様なジャンルの事業を開催するため、広く市民のニーズを把握する必要がある。	文化会館の自主文化事業として、多様なジャンルの文化芸術事業を実施するよう指示・支援する。(クラシック音楽、演歌、子ども向け催し物、コンサート、映画など)
	文化芸術公演などにおける手話、字幕などの整備促進	文化共生G	(公財) 亀山市地域社会振興会	文化会館の自主文化事業の内容に応じ、手話や字幕などの実施を指示する。	文化会館フェスタ2017の舞台発表において、発表団体や演目等の字幕をプロジェクターに投影した。	文化会館の自主事業において、手話や字幕の整備を促進する必要がある。	今後も文化会館の自主文化事業の内容に応じ、手話や字幕などの実施を指示する。
	学校や福祉施設などにおけるアウトリーチ活動の推進	文化共生G	(公財) 亀山市地域社会振興会	文化会館の自主文化事業として、アウトリーチ活動を継続するよう指示・支援する。(学校における発声、合唱指導など)	亀山市文化会館の自主文化事業として、アウトリーチ活動が実施された。アウトリーチ活動実施数：6事業	優れた文化芸術に触れる機会として、引き続き、アウトリーチ活動を様々な場所で行っていく必要がある。	文化会館の自主文化事業として、アウトリーチ活動を継続するよう指示・支援する。(学校における発声、合唱指導など)
	県や周辺市町の文化施設などとの連携による文化芸術鑑賞機会の提供	文化共生G	(公財) 亀山市地域社会振興会	文化会館と県や周辺市町の文化施設などと連携して、自主文化事業の内容を充実させるとともに、優れた文化芸術を鑑賞できる機会の提供に努める。	亀山市美術展の特別展において、伊賀市、甲賀市、亀山市の「いこか連携プロジェクト」の取組の一環として、亀山市美術展と甲賀市美術展の入賞作品の展示を行った。	今後も周辺市町や文化施設と連携して、優れた文化芸術を鑑賞できる機会を提供する必要がある。	文化会館と県や周辺市町の文化施設などと連携して、自主文化事業の内容を充実させるとともに、優れた文化芸術を鑑賞できる機会の提供に努める。
③文化芸術活動の成果を発表する機会の提供	市民文化祭や生涯学習フェスティバルなどへの参加の促進	文化共生G	亀山市芸術文化協会	市民文化祭の内容や位置づけを再検討し、市民文化祭により多くの市民や団体が参画できるよう周知を行う。	文化年の実施に伴い、市民文化祭は休止し、文化会館が実施する文化会館フェスタ2017を支援した。	文化年プロジェクトの進捗や成果をもとに、文化会館、芸術文化協会等の団体の意向を踏まえ、市民文化祭のリニューアルを検討する必要がある。	市民文化祭の内容や位置づけの検討を継続して行う。
		社会教育G	亀山市立中央公民館	今後についても、さまざまな場を利用して成果発表を実施していく。	学びの成果発表の場として、公民館講座成果展示を実施した。	学びの成果還元が地域文化の向上につながるという視点から継続的な実施が必要である。また、市民大学での講座を踏まえて、生涯学習フェスティバルへ繋いでいく必要がある。	今後についても、さまざまな場を利用して成果発表を実施していく。
	亀山市美術展などの充実	文化共生G		日頃の活動の成果を発表できる機会として、市美術展を開催するとともに、様々なジャンルの特別講座を開催して、美術展の内容を充実させる。また、審査、展示等について段階的に改善に取り組む。	かめやま文化年2017の一環として亀山市美術展を開催し、特別展「中村晋也・上田秀洋 二人展」と特別講座「彫刻とろうそくのワークショップ」を行った。	市美術展の開催につき、引き続き、審査、展示について段階的に改善に取り組む必要がある。	日頃の活動の成果を発表できる機会として、市美術展を開催する。また、審査、展示等について段階的に改善に取り組む。
④文化団体、文化ボランティアなどの育成と活動支援	亀山市芸術文化協会との連携強化と活動への支援	文化共生G		亀山市芸術文化協会と連携して市民文化祭・文化会館フェスタや市展を開催するとともに、補助金による財政支援を行う。	亀山市芸術文化協会と連携して、文化会館フェスタ2017や市展を開催した。また、補助金による財政支援を行った。補助金額：600,000円	市の文化振興を図るため、芸術文化協会との連携をより強めていく必要がある。	亀山市芸術文化協会と連携して、市民の文化活動の成果発表の場を盛り上げていく。
	市民の自主企画による展覧会や音楽会、文学などの発表活動への支援	文化共生G		かめやま文化年2017の企画事業として、アート亀山トリエンナーレの開催に向けた支援を行う。	かめやま文化年2017の企画事業として、アート亀山トリエンナーレを開催し、多くの方に魅力あふれる現代美術の世界に触れていただく機会となった。	かめやま文化年の集大成となるかめやま文化年2020に向けて、文化団体や市民ネットワーク等のつながりを深めるとともに、多くの市民が文化に関われる機会を増やしていく必要がある。	かめやま文化年2017を検証し、次回のプロジェクトかめやま文化年2020の検討を行う。
	継続して特色ある文化活動を行なっている団体への支援	文化共生G	(公財) 亀山市地域社会振興会	協働事業として、子ども能サークルの活動を支援するほか、かめやま文化年の関連事業の中で、市内で活動されている文化団体の支援を行う。	かめやま文化年の関連事業として、かめやま子ども能サークルと協働で「能の魅力発見と子どもたちの体験プロジェクト」を開催した。	継続して特色ある文化活動を行っている団体のほか、新規で活動を行おうとしている団体にもサポートが必要である。	文化会館と連携して、市内で特色ある文化活動を行なっている団体の活性化や新規で意義のある活動を進めようとしている団体の発展を目指し、活動支援を行う。
	文化芸術事業の企画運営や市民の文化芸術活動をサポートする、文化ボランティアの育成と活用	文化共生G	(公財) 亀山市地域社会振興会	文化会館を拠点として活動している団体に声を掛け、催し物受付などのボランティア登録者を増やし、その活用を図る。	文化会館を拠点に活動している文化団体からボランティア登録・確保し、受付や客席案内で活用した。	引き続き、文化団体に声を掛け、ボランティアの登録数の増加を目指す。	文化会館を拠点として活動している団体に声を掛け、催し物受付などのボランティア登録者を増やし、その活用を図る。

⑤文化芸術を担う人材の育成	文化芸術活動に功績のあった人材を顕彰する制度の創設	文化共生G		文化振興ビジョンの中間見直しに伴い、制度の在り方等について検討委員会で検討を行う。	検討委員会での検討を行う中で、文化振興条例の制定に併せて検討することとした。	文化振興条例の制定に併せて、具体的なその対象者の選定方法や、顕彰の基準について検討が必要である。	文化振興条例の制定のための準備を進めるとともに、顕彰制度の創設に向けて、引き続き検討を行う。
	文化芸術活動を支える人材の育成	文化共生G	(公財)亀山市地域社会振興会	今後も文化芸術を支える人材育成を進めるため、文化会館の自主文化事業として、アウトリーチ活動や市民参加型事業を実施するよう支援する。	文化会館の自主文化事業として、アウトリーチ活動を行い、市内の小・中学校、高校へプロの奏者などを派遣し、児童生徒に本格的な音楽に触れていただく貴重な機会となった。	文化芸術を支える人材の育成のため、引き続き、アウトリーチ活動や市民参加型事業を行い、将来文化を担う人材を育成する必要がある。	今後も文化芸術を支える人材育成を進めるため、文化会館の自主文化事業として、アウトリーチ活動や市民参加型事業を実施するよう支援する。
	芸術家に市内に滞在してもらい、創作活動の場を提供するアーティスト・イン・レジデンスの検討	文化共生G		協働事業提案制度の活用など、市民の自主企画による活動を支援するとともに、アーティスト・イン・レジデンスの実施を支援する。	協働事業として、かめやまこども能サークルと「能の魅力発見と子どもたちの体験プロジェクト」に取り組み支援を行った。	市民の自主企画による活動を支援していく中で、必要に応じて、アーティスト・イン・レジデンスの支援を引き続き行っていく必要がある。	協働事業提案制度の活用など、市民の自主企画による活動を支援するとともに、アーティスト・イン・レジデンスの実施を支援する。
	生涯学習人材バンクの普及と活用	社会教育G		生涯学習計画に基づき学び手から学びの提供者への転換の方策として、人材バンクを周知してゆきたい。	平成29年度は12園で実施し、小学校、保育園、幼稚園と様々な場所での利用が図られた	保育園・幼稚園・学校には十分に浸透しているが、時間や日程等の制約があり、利用しやすい環境整備が必要である。	生涯学習計画に基づき学び手から学びの提供者への転換の方策として、人材バンクを周知してゆきたい。
⑥スポーツ文化の振興	スポーツ文化に関する情報提供の充実	スポーツ推進G		スポーツの重要性を市民に認識してもらえるよう、イベントや各種教室、スポーツ関係団体の紹介など、様々なスポーツ情報を提供する。	イベントや各種教室の開催について、市広報やホームページ等で情報提供を行った。	スポーツの重要性を市民に認識してもらえるよう、引き続き、情報提供を行う必要がある。	スポーツの重要性を市民に認識してもらえるよう、イベントや各種教室、スポーツ関係団体の紹介など、様々なスポーツ情報を提供する。
	総合型地域スポーツクラブへの支援	スポーツ推進G		だれもが、いつでも、いつまでも、気軽にスポーツに取り組むことのできる総合型地域スポーツクラブの活動が活性化するよう、補助金による財政支援及び助言を行う。	総合型地域スポーツクラブ「ENJOYかめ亀クラブ」に対して、補助金を交付し財政支援を行った。	地域でのスポーツ環境を整備するため、引き続き、総合型地域スポーツクラブに対する支援が必要であるが、自立のための助言なども行う必要がある。	だれもが、いつでも、いつまでも、気軽にスポーツに取り組むことのできる総合型地域スポーツクラブの活動が活性化するよう、補助金による財政支援及び助言を行う。
	スポーツ事業と文化事業のコラボレーションの検討	スポーツ推進G		スポーツ事業と文化事業が融合できる機会を検討する。	江戸の道シティマラソンの開会式において、市の伝統芸能である葛葉太鼓の演奏を行った。	スポーツと文化が融合可能な事業を検討する必要がある。	スポーツ事業と文化事業が融合できる機会を検討する。

(2) 文化交流の促進と知の拠点の整備充実

施策項目	施策の内容	担当G	関連部署・関連団体	平成29年度の計画（具体的な取り組み内容）	(1) 平成29年度の実績	(2) 今後の課題	(3) 平成30年度の計画（具体的な取り組み内容）
①世代間交流の促進	地域の伝統行事や学校行事などを活用した、文化を通じた世代間交流の促進	文化共生G	亀山市芸術文化協会	かめやま文化年2017の中で、世代間交流が促進される事業を展開するとともに、市民文化祭の在り方や、若い世代が参画できる手法について検討を進める。	かめやま文化年2017の中で、各世代が交流できるイベントや事業を開催した。	市民文化祭の在り方や若い世代が参画できる手法について検討する必要がある。	かめやま文化年2020の中で、世代間交流が促進される事業を展開するため、市民文化祭の在り方や、若い世代が参画できる手法について検討を進める。
		教育支援G	地区コミュニティ	各学校において学校行事や地域交流等の機会を利用し、地域人材を活用した地域の伝統芸能や技術等を学びながら、地域の人との交流を図る。	地域人材を活用した地域の伝統芸能（かんこ踊り、いのこ、神輿など）や技術（紙すき、短歌と俳句、書道等）を学ぶことを通して、地域の人との交流をした。	引き続き、世代間交流の場の一つとして、学校行事や地域交流の場を活用する必要がある。	各学校において学校行事や地域交流等の機会を利用し、地域人材を活用した地域の伝統芸能や技術等を学びながら、地域の人との交流を図る。
	文化共生G	(公財) 亀山市地域社会振興会	文化会館や芸術文化協会の実施する世代間交流事業を支援する。また、各地域において世代間交流を深める事業が展開されるよう検討する。	文化会館の自主文化事業で、子供向けの体験型事業などを行い、世代間交流を深める事業が実施された。	各地域においても世代間交流を深める事業を展開していく必要がある。	かめやま文化年2020において、各地域で世代間交流を深めることのできる事業が展開されるよう検討する。	
	社会教育G	亀山市立中央公民館	生涯学習計画に基づき、今後とも、世代間交流ができる講座を提供していく。	世代間交流が促進されるよう、「子&孫育ての宝箱」講座を実施した。	亀山市講座募集のお知らせ等で周知を図り、継続的に実施を行う必要がある。	生涯学習計画に基づき、今後とも、世代間交流ができる講座を提供していく。	
②地域間交流の促進	周辺市町及び関連市町との連携による、市民レベルの文化交流機会の充実	文化共生G		三市の美術展において、優秀作品の相互展示を実施するとともに、情報交換を積極的に行う。	亀山市美術展の特別展において、伊賀市、甲賀市、亀山市の「いこか連携プロジェクト」の取組の一環として、亀山市美術展と甲賀市美術展の入賞作品の展示を行った。	今後も、市町相互で取り組める文化交流について検討する必要がある。	伊賀市、甲賀市、亀山市の「いこか連携プロジェクト」の取組を活用し、美術展の相互展示を実施するとともに、情報交換を積極的に行う。
		政策調整G		担当者会議で事業計画を立て、市民主体の友好交流を図る三市交流事業を検討する。 なお、平成30年度の日本武尊・白鳥伝説交流事業は、羽曳野市での開催が予定されている。	平成29年度では、担当者会議が開催されなかった。	平成30年度の羽曳野市での交流事業の開催に向け、羽曳野市・御所市との三市で調整し、事業を実施する。	平成30年度日本武尊・白鳥伝説三市交流事業を開催し、市民同士の交流促進を図る。 【開催日】平成30年10月14日（日）※予定 【場所】羽曳野市内 【内容】日本武尊に係る講演、白鳥陵の見学等
	文化共生G	亀山市芸術文化協会	知の拠点となる文化会館や、文化団体交流の中心的役割を担っている亀山市芸術文化協会の取組みを支援する。	文化会館フェスタ2017を開催し、新たな参加団体も増え、文化団体同士の交流の機会が生まれた。	文化団体交流の中心的役割を担っている、亀山市芸術文化協会が、高齢化や担い手不足により登録団体が減少傾向にある。	知の拠点となる文化会館や、文化団体交流の中心的役割を担っている亀山市芸術文化協会の取組みを支援する。	
③国際交流の促進	外国人住民が日本語を習得できる機会の確保と、やさしい日本語によるコミュニケーションの普及	市民協働G	はじめのいっぽ	・日本の文化を取り入れた講座を実施しており、生徒やスタッフの意見と取り入れ検討していく。	学習者が日本の文化にふれる機会をスタッフと検討した結果、七夕の笹飾りを作成することになった。七夕について学習した後、覚えた日本語や母語で願い事を短冊に書き入れ笹に飾り付けをし、市役所、市民協働センター「みらい」、青少年研修センターの3カ所に設置して、多くの市民に見ていただいた。	学習者は日本語の学習をしたいため、日本文化の学習に授業時間をあまり充てることができない。今後も学習者やスタッフの意見を取り入れながら、授業内容を検討していく。	亀山市のゴミの分別について、学習する機会を設ける。
	外国人住民に対する情報提供の充実と、まちづくりへの積極的な参加の促進	市民協働G		・「かめやまニュース」のやさしい日本語版を発行するよう進めて行く。	平成29年8月1日号より、毎月1回、かめやまニュース（やさしい日本語版）を発行した。	やさしい日本語版をよりわかりやすい内容になるよう工夫する。	職員が、行政用語等を外国人住民が理解できるやさしい日本語に変換できるよう、各掲載事項の詳細を勉強する。
	図書館			市在住の外国人の方に、図書館を利用してもらえるようチラシの配布等を行う。	本庁1階に図書館利用の案内チラシを設置するほか、外国人交流イベント時に外国語書籍の紹介を行う取組みをした。なお、英語、ポルトガル語、スペイン語を中心に1,333冊所蔵し、594冊の貸出を行った。	「かめやまニュース」を活用するなど、幅広い周知活動を行う。	「かめやまニュース」を活用し図書を紹介する。また、外国語書籍のブックリストの作成を行い、館内やイベントで配布する。
④知の拠点の整備充実	文化施設の計画的な整備とそれぞれのコンセプトに応じた機会の充実	文化共生G		文化会館会議室棟・市民ロビー空調設備改修工事、文化会館高圧受変電設備修繕工事を実施する。	文化会館会議室棟・市民ロビー空調設備改修工事、文化会館高圧受変電設備修繕工事を実施した。	引き続き、利用者ニーズに応じた施設整備を行う必要がある。	文化会館大ホール空調設備改修工事を実施する。
	文化施設におけるバリアフリー化の推進	文化共生G		亀山市都市マスタープランに基づき、文化会館・亀山市中央コミュニティセンターのバリアフリー化を進める。	平成29年度ではバリアフリー化に関する具体的な取組みは実施していない。	亀山市都市マスタープランに基づき、施設のバリアフリー化について検討する必要がある。	亀山市都市マスタープランに基づき、文化会館・亀山市中央コミュニティセンターのバリアフリー化を進める。
	文化施設の事業運営への市民参画の促進	文化共生G	(公財) 亀山市地域社会振興会	文化会館が設置する運営委員会への市民参加を促進する。	文化団体の代表者や芸術文化協会の役員など市民活動団体の構成員の参画を得て、文化会館運営委員会を開催し、事業運営に対する意見を求めることが出来た。	引き続き、運営委員会への市民参加を促進し、事業運営等に対する意見を求める必要がある。	文化会館が設置する運営委員会への市民参加を促進する。
⑤身近な文化芸術活動の場の提供	コミュニティセンターをはじめ公共施設の有効活用による、文化芸術の場の拡大	文化共生G		既存の展示スペースを有効活用できるよう、施設管理者と連携しながら市民や文化団体にPRする。	東野公園体育館には、展示用としてピクチャーレールが設置されているが、使用実績はなかった。	展示スペースを有効活用できるよう、市民や文化団体に周知する必要がある。	既存の展示スペースを有効活用できるよう、施設管理者と連携しながら市民や文化団体にPRする。
	学校施設の開放や空き家などの活用の検討	文化共生G		身近な文化芸術活動の場として、空き家などの活用を検討する。	亀山トリエンナーレ2017において、空き家や空き店舗を活用したイベント等を多数開催した。	引き続き、空き家等の活用方法について、検討する必要がある。	身近な文化芸術活動の場として、空き家などの活用を検討する。
	公共施設におけるアトリースペースの提供	文化共生G		公共施設におけるアトリースペースが実施できるよう、継続して周知を図る。	文化会館の市民ロビーや市民協働センターみらいなどにおいて、市民団体によりアトリースペースとして活用された。	引き続き、アトリースペースが実施できるスペースを公共施設において確保するとともに周知を図る必要がある。	公共施設におけるアトリースペースが実施できるよう、継続して周知を図る。
⑥知の拠点のネットワークづくり	文化施設間における情報の共有化と事業連携の促進	文化共生G	(公財) 亀山市地域社会振興会	市内の文化施設がより多くの市民に利用してもらえるよう、相互の施設間の連携を促進する。	各施設の資料の配架やポスター掲示等依頼などを行った。	より多くの市民に利用してもらえるよう、施設間の連携を深める必要がある。	市内の文化施設がより多くの市民に利用してもらえるよう、相互の施設間の連携を促進する。
	県や近隣市町の文化施設との広域連携や機能分担の促進	文化共生G	(公財) 亀山市地域社会振興会	文化会館と県や周辺市町の文化施設などが連携して、自主文化事業の内容を充実させるとともに、施設間での情報交換を進める。	三重県文化会館ホール部門運営委員会に会館職員が所属しており、委員会の中で自主文化事業に関する情報交換などを行った。	引き続き、県や周辺市町と連携して、様々な助成事業に応募し、自主文化事業の内容を充実させていく。	文化会館と県や周辺市町の文化施設などが連携して、自主文化事業の内容を充実させるとともに、施設間での情報交換を進める。

(3) 歴史文化遺産の保存と活用

施策項目	施策の内容	担当G	関連部署・関連団体	平成29年度の計画（具体的な取り組み内容）	(1) 平成29年度の実績	(2) 今後の課題	(3) 平成30年度の計画（具体的な取り組み内容）
①文化財などの適切な保存及び活用	文化財などの保存・継承に携わる専門職員の育成	まちなみ文化財G	歴史博物館	引き続き文化庁へ職員1名を研修派遣。各種研修会への参加を継続する。	文化庁へ職員1名を研修派遣し、各種研修会へ参加させた。	引き続き文化庁へ職員を研修派遣。各種研究会への参加を継続する。派遣した職員を関係部署に配置し、研修成果を現場へ還元する。	引き続き文化庁へ職員1名を研修派遣。各種研修会への参加を継続する。
	文化財などの保存状況の定期的な点検の実施と、必要に応じて修復を行なうなど保存の推進	まちなみ文化財G		適宜文化財パトロールを実施するとともに、所有者等の相談に応じる。	警報発令後等に、職員による文化財パトロールを実施した。所有者等の求めに応じ、修復工事等に対する支援を行った。	文化財所有者等への支援を拡充するため、さまざまな文化財分類に応じた職員の専門的知識の習得が必要である。	適宜文化財パトロールを実施するとともに、所有者等の相談に応じる。
	歴史文化遺産保全活用推進員（ハリテージマネージャー）の育成	まちなみ文化財G	NPO法人亀山文化遺産研究会	研修会等へ講師を派遣するとともに、協働により様々な事業を行う。	求めに応じて研修会へ市職員を講師として派遣した。関宿伝建地区内で協働して修理現場公開事業を行った。	活動支援を行うとともに、引き続き活動の場を提供することが必要である。	研修会へ講師を派遣するとともに、協働して事業を行う。
②歴史的なまちなみの保存	東海道関宿の重要伝統的建造物群保存地区における適切な保存修理・修景の推進	まちなみ文化財G	NPO法人亀山文化遺産研究会	事業を実施するとともに、安定した財源の確保に努める。	伝統的建造物保存修理修景事業を実施した。	計画的な事業の推進、継続が必要。	事業を実施するとともに、安定した財源の確保に努める。
	亀山宿、坂下宿、坂本棚田など歴史的なまちなみ、文化的な景観の保存・整備の推進	まちなみ文化財G	都市計画G	整備済みの歴史的建造物をつなぐ街道等の整備について、引き続き関係部局室と協議を行う。	旧佐野家住宅の整備を実施した。	整備した歴史的建造物をつなぐ街道の整備等について、引き続き関係部署との協議を行う。	整備した旧佐野家住宅の公開活用に努める。
		農業G	坂本営農組合	中山間地域等直接支払制度（第4期対策）から始まった超急傾斜農地保全管理加算により、さらなる農用地の保全や有効活用に取り組む。	当該事業における協定農地（207.475㎡）については、中山間地域等直接支払制度（第4期対策）において超急傾斜農地保全管理加算等により、棚田米の販売等ができた。また、文化年の事業として「棚田あかり」のイベントにより市内外の方に坂本棚田をPRすることができた。	中山間地域における農業の担い手不足（高齢化）により、協定農地における保全管理は継続されているが、耕作地が減少傾向にある。	第4期の4年目ということで、計画的に事業を執行するとともに、次期の取組に向けて集落への支援を行う。
	まちなみ保存につながる活動及びまちなみ内の歴史的施設を利用したイベントの支援	まちなみ文化財G	NPO東海道関宿関宿案内ボランティアの会 亀山宿語り部の会	亀山宿語り部の会の自立に向けて支援を行う。	一般市民向けの亀山宿語り部の会学習会を実施した。	会員の増など、担い手の積極的な育成を図る必要がある。	亀山宿語り部の会の自立に向けて支援を行う。
農業G		三重県自治会 三重大学など	平成24年度事業をもって終了。				
③歴史文化遺産への理解を深めるための事業の推進	歴史文化遺産の展示・公開、歴史文化遺産情報の発信	歴史博物館		寄贈・寄託資料の申し出があった場合、館内全体で受領の検討をする。ウェブ図録については、展示担当以外も協力し、早期配信に努める。	寄贈・寄託件数 29件 寄贈・寄託の申し出のあった資料は毎月1回の会議で受領を検討、厳選したうえで受領した。亀博自由研究のひろば、第29回企画展のウェブ図録を、それぞれの会期中に配信した。	過去の企画展等について、ウェブ図録を配信できていないものがあり、早期配信することが必要。	ウェブ図録の作成を行うために必要な手続きをマニュアル化し、全企画展示の確実なウェブ図録の配信を行う。
	歴史文化遺産を活用した郷土学習の充実	歴史博物館	教育支援G	亀山西小学校で移動展示、亀山中学校でミニ展示を行う。	平成29年6月17日に亀山中学校でミニ展示、平成30年2月2日に亀山西小学校で「歴史博物館 in 亀山西小学校」を開催した。	市内小中学校の中には、未だ移動展示等が未実施の学校があり、より利用しやすい状況を作っていく必要がある。	関小学校で移動展示を行う。
④市民ぐるみによる歴史文化遺産を活用したまちづくりの推進	語り部、保存会、地区コミュニティなど地域住民が主体となって地域の歴史文化遺産を保存、活用する取り組みの促進と活動への支援	まちなみ文化財G	自治会 地区コミュニティ	市民活動の継続を支援するとともに、新たな地区での活動を促す。	市内各地での歴史文化遺産を核とした諸活動を支援した。	市民活動の継続を支援するとともに、新たな地区での活動を促す。	市民活動の継続を支援するとともに、新たな地区での活動を促す。
	デジタル市史を活用し、地域と連携した歴史博物館（屋根のない博物館）の創出	歴史博物館	教育支援G	亀山西小学校で移動展示、亀山中学校でミニ展示を行う。	平成29年6月17日に亀山中学校でミニ展示、平成30年2月2日に亀山西小学校で「歴史博物館 in 亀山西小学校」を開催した。	学校との連携による活用だけでなく、地域との連携による活用を促進していく必要がある。	関小学校で移動展示を行う。また、行政出前トークのテーマを改め、より地域で使ってもらいやすいテーマ設定をする。
⑤歴史文化遺産から文化を発信する	歴史文化遺産を活用したまちづくり観光の推進	観光交流G	関宿・周辺地域にぎわいづくり推進連絡会議	引き続き、関宿・周辺地域にぎわいづくり補助金交付要綱の見直しを行なう。	関宿・周辺地域にぎわいづくり補助金により3事業の支援を行なった。また、関宿・周辺地域にぎわいづくり補助金交付要綱の見直しについて検討、改正を行なった。	引き続き、にぎわいづくり活動団体の育成に繋がる、にぎわいづくり補助金のソフト事業以外のハード事業等への活用を検討する。	引き続き、関宿・周辺地域にぎわいづくり補助金交付要綱の見直しを行なう。
	歴史文化遺産を活用した文化イベントの開催	まちなみ文化財G	関宿スケッチコンクール実行委員会 関宿町並み町屋茶会実行委員会	「文化財建造物公開活用事業」を進める。	市民協働提案事業（行政提案）「文化財建造物公開活用事業」により、市民団体等との協働を進め、様々なイベントを開催するとともに、文化財建造物の公開を進めた。	市民団体等との連携を深め、文化財建造物の公開をより進める必要がある。	「文化財建造物公開活用事業」を進める。

(4) 伝統芸能の継承と活用

施策項目	施策の内容	担当G	関連部署・関連団体	平成29年度の計画（具体的な取り組み内容）	(1) 平成29年度の実績	(2) 今後の課題	(3) 平成30年度の計画（具体的な取り組み内容）
① 伝統芸能の保存、継承	郷土芸能や伝統行事が有する文化的価値について、理解、普及を図るための情報提供の充実	まちなみ文化財G	広報秘書G	広報・広報番組等を活用して、伝統行事等の広報を行う。	広報・広報番組等を活用して、伝統行事等の広報を行った。	伝統行事等の確実な継承・実施に向けた支援を行う。	広報・広報番組等を活用して、伝統行事等の広報を行う。
	映像や音声などによる郷土芸能や伝統行事の記録化	まちなみ文化財G		平成25年度で事業完了			
		歴史博物館	まちなみ文化財G	引き続き亀山市史の維持管理を継続していく。	亀山市史の維持管理を行った。	亀山市史は各分野でスタイルが統一されておらず、セキュリティの在り方も各分野でまちまちになっている。より見やすく、総合的な改編が必要である。	亀山市史の改編について、亀山市歴史博物館専門委員会に諮る。
	活動が消滅、衰退している郷土芸能や伝統行事の発掘と復興のための取り組みの促進	文化共生G まちなみ文化財G		郷土芸能や伝統行事に携わる団体に対し、国や民間団体等の各種助成金制度を周知し、活動を支援する。 各山車持ち団体（自治会）によるお囃子披露（発表会）を実施する。	文化庁の実施している伝統文化親子教室事業を活用し、伝統芸能の保存団体等が助成金を獲得して事業を実施することができた。 各山車持ち団体（自治会）によるお囃子披露（発表会）を実施した。	引き続き、様々な制度を活用しながら、継続的に活動している団体を支援する必要がある。	郷土芸能や伝統行事に携わる団体に対し、国や民間団体等の各種助成金制度を周知し、活動を支援する。 山車会館の整備にあわせて支援を行う。
② 伝統芸能の後継者の育成	郷土芸能や伝統行事についての文化芸術講座や実演会の開催など、市民が伝統文化に触れ、親しむ機会の充実	文化共生G まちなみ文化財G 社会教育G		かめやま文化年2017において、伝統文化や行事を体験できる機会を創出する。 各山車持ち団体（自治会）によるお囃子披露（発表会）を実施する。 生涯学習計画に基づき、今後も広い視野で伝統文化に接する機会提供を進める。	かめやま文化年2017において、お茶どころである亀山のお茶の魅力を体感してもらう機会を設けるなど、伝統文化や行事を体験できる機会を創出した。 各山車持ち団体（自治会）によるお囃子披露（発表会）を実施した。 出前文化教室や出前教室など、11の伝統文化に関する講座を実施した。	今後も、市民が伝統文化・伝統行事に触れる機会を創出する必要がある。 山車会館の整備にあわせて定期的な実施に向けた支援を行う。	様々な機会を捉えて、市民が伝統文化・伝統行事を体験できる機会創出について検討する。 山車会館の整備にあわせて支援を行う。
	子どもや若者が地域の伝統文化を学ぶ機会の充実	文化共生G まちなみ文化財G 社会教育G		文化庁の実施している伝統文化親子教室事業を活用し、主催団体の支援を行う。また、協働事業となっているこも能サークル「輝」の支援を行う。 各山車持ち団体（自治会）によるお囃子披露（発表会）を実施する。 生涯学習に基づき、今後も、子どもから大人まで参加することができる講座が後継者育成につながるように継続実施していく。	文化庁の実施している伝統文化親子教室事業を活用し、伝統芸能の保存団体等が助成金を獲得して事業を実施することができた。また、協働事業として、かめやまこも能サークルと「能の魅力発見と子どもたちの体験プロジェクト」に取り組み支援を行った。 各山車持ち団体（自治会）によるお囃子披露（発表会）を実施した。 家族で参加できる「子&孫育ての宝箱」講座の中で、わらべ唄の講座を実施した。	引き続き、様々な制度を活用しながら、継続的に子供たちが伝統文化を体験できる機会を創出する必要がある。 山車会館の整備にあわせて定期的な実施に向けた支援を行う。	子どもたちが伝統文化を体験できる機会について検討する。 山車会館の整備にあわせて支援を行う。
	地域の高齢者が子どもや若者に伝統文化を伝える仕組みづくりの推進	まちなみ文化財G 社会教育G	関宿「関の山車」保存会	各山車持ち団体（自治会）によるお囃子披露（発表会）を実施する。	各山車持ち団体（自治会）によるお囃子披露（発表会）を実施した。	山車会館の整備にあわせて定期的な実施に向けた支援を行う。	山車会館の整備にあわせて支援を行う。
		社会教育G	亀山市立中央公民館	生涯学習に基づき、今後も、子どもから大人まで参加することができる講座が後継者育成につながるように継続実施していく。	家族で参加できる「子&孫育ての宝箱」講座の中で、わらべ唄の講座を実施した。	今後も、家族で参加できる伝統文化に関する学習機会を継続していく必要がある。	生涯学習に基づき、今後も、子どもから大人まで参加することができる講座が後継者育成につながるように継続実施していく。
		まちなみ文化財G	関宿「関の山車」保存会	各山車持ち団体（自治会）によるお囃子披露（発表会）を実施する。	各山車持ち団体（自治会）によるお囃子披露（発表会）を実施した。	山車会館の整備にあわせて定期的な実施に向けた支援を行う。	山車会館の整備にあわせて支援を行う。
		社会教育G		生涯学習計画に基づき、人材バンクなど、学び手から学びの提供者への転換を図る場として放課後子ども教室の活用も促していく。	放課後子ども教室において和太鼓、茶道、生け花などの体験教室の開催を行った。特に加太小学校では、参加している児童からの要望で和太鼓を学びたいと要望があり、年度途中に追加実施した。	コーディネーター意見交換会などの場を通じて、地域から次世代への文化伝達方法の共有が必要である。また、参加児童からの要望を汲み取った事業も開催できるよう、コーディネーターを中心に取り組む必要がある。	生涯学習計画に基づき、人材バンクなど、学び手から学びの提供者への転換を図る場として放課後子ども教室の活用も促していく。
		文化共生G		他部署や他市町の催して、亀山市の伝統芸能が披露できる機会作りについて検討する。	かめやま文化年2017の一環として、岡山市高梁市で灯おどり保存会の皆さんによる灯おどりが披露された。	伝統芸能の披露の機会が固定化しているため、他部署や他市町の催しての披露ができないか検討する必要がある。	様々な機会を捉えて、亀山市の伝統芸能を披露できる場づくりを検討する。
③ 伝統芸能の公開	市民文化祭のほか、国民文化祭、県民文化祭などの機会をとらえて、亀山市の伝統芸能を披露する公演の実施	文化共生G		他部署や他市町の催して、亀山市の伝統芸能が披露できる機会作りについて検討する。	かめやま文化年2017の一環として、岡山市高梁市で灯おどり保存会の皆さんによる灯おどりが披露された。	伝統芸能の披露の機会が固定化しているため、他部署や他市町の催しての披露ができないか検討する必要がある。	様々な機会を捉えて、亀山市の伝統芸能を披露できる場づくりを検討する。

(5) 文化的な景観の保全

施策項目	施策の内容	担当G	関連部署・関連団体	平成29年度の計画（具体的な取り組み内容）	(1) 平成29年度の実績	(2) 今後の課題	(3) 平成30年度の計画（具体的な取り組み内容）
①景観の保全、整備の推進	亀山市景観条例及び景観計画の効果的な運用による魅力ある景観の保全と形成	都市計画G		景観法の届出時において、申請者と事前相談しながら、より良好な景観形成を目指して景観計画の運用を図る。	景観法の届出に際し、40件の事前相談を行った。	景観法による届出がされない場合があるため、景観法による届出の周知の必要がある。	引き続き、景観法の届出時において、申請者と事前相談しながら、より良好な景観形成を目指して景観計画の運用を図る。
	景観形成推進地区及び景観重点地区の指定と保全、整備の推進	都市計画G		地域と連携した景観づくりのため、具体の事業の際には、まちづくり協議会等と連携していく。	2月に城西地区まちづくり協議会に対して、景観形成推進地区等の景観制度について説明するとともに、今後の当該地区の景観について意見交換を行った。	昨年度、説明を行った城西地区に対して景観形成推進地区等の重点地区指定や補助制度の意向について確認する必要がある。	城西地区に対して景観形成推進地区等の重点地区指定や補助制度の意向についてアンケート等により調査を行う。
	亀山市の景観の大きな特徴となっている自然景観、歴史・文化景観のうち、主要な視対象について、眺望景観として発掘、保全の推進	都市計画G 農業G		亀山市歴史的風致維持向上計画に基づき、歴史・文化景観のうち、歴史的風致を形成する上で重要な建造物である「福泉寺山門（平成27年10月歴史的風致形成建造物指定）」の修理に対して、補助金を交付し整備を進める。	「福泉寺山門」の修復工事が完了し、補助金の交付を行った。	主要な視対象について、眺望景観として発掘、保全の推進が必要である。	引き続き、景観届出の際に、チェックシートに行方地の近隣に主要な視対象・視点場リストに挙がっているものがないか確認を行い、また、ある場合は眺望保全に配慮するよう指導を行う。
	景観計画の周知のための啓発や情報提供の充実	都市計画G		平成29年度から新たに始まった田園環境保全事業に基づき、農地を保全し、持続的な田園環境の維持を促進する。	H29年度から「田園環境保全事業」を展開し、集落営農組織等や農家等7件が事業に取り組み、農村景観の向上や耕作放棄地の発生防止に繋がった。また、フェイスブック等により市内外にPRすることができた。	農家や営農組合の担い手が高齢化していることや、市の補助金だけでは必要経費を賄う程度でしかないため、取組面積の拡大に繋がりにくい。	農業経営の安定化を支援しつつ、フェイスブック等を通じ情報発信することで農村景観の向上や耕作放棄地の発生防止に理解を得て、持続的な運営を支援する。
②地域における環境意識を高める取り組みの推進	里山公園や森林公園などを環境学習の場として活用	環境創造G		引き続き、5月に春のイベント、8月にザリガニつり大会、12月にクリスマスリースづくり体験を実施し、自然の大切さを学ぶ機会を設ける。また、農業体験（田植え、稲刈り、もちつき）を通して、米作りの大変さや喜びについて、学ぶ機会を設ける。亀山里山公園みちくさ管理運営協議会主体のフォトコンテストや里山塾において、環境教育の充実を図っていく。	春のイベントやザリガニつり大会、クリスマスリースづくり体験などを実施する事で、自然の大切さを学ぶ機会を設けた。（H29年度約1,130名参加）農業体験については協力いただいている方の都合で実施ができなかった。市民団体と行政で構成する亀山里山公園みちくさ管理運営協議会において、フォトコンテスト、里山塾（年7回）を実施。また、本協議会において、運営方法について検討を行った。（H28年度8回開催）	イベント参加者に、環境に関する目新しい情報や里山の機能・重要性をわかりやすく発信できるようにイベント内容の改善を図っていく必要がある。	5月に春のイベント、8月にザリガニつり大会、12月にクリスマスリースづくり体験を実施し、自然の大切さを学ぶ機会を設ける。亀山里山公園「みちくさ」管理運営協議会主体のフォトコンテスト、里山塾において、環境教育の充実を図っていく。
	協賛企業や地元住民の協働による、森林づくりのための実践活動の促進	森林林業G	商工業・地域交通G かめやま会故の森環境整備協議会	「かめやま会故の森環境整備構想」は平成29年度に終期を迎えるため、更新又は終了するのか協議会に諮り決定する。	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用し、亀山里山公園や亀山森林公園において、イベントを通じて市民に森林や木材に触れ合う機会を提供した。また、亀山森林公園において、有志で結成された生物多様性グループによる自然観察や動植物調査を実施した。G活動回数：4回、イベント回数：4回、参加者数256名	公園を利用した環境イベントは、市主体であり、自然公園の更なる有効活用のためには、地元まちづくり協議会や市民団体が主体となったイベントの開催を促進することも必要である。	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用し、亀山里山公園や亀山森林公園において、イベントを通じて市民に森林や木材に触れ合う機会を提供する。また、亀山森林公園において、有志で結成された生物多様性グループによる自然観察や動植物調査を実施する。そして、自然公園の更なる有効活用のために、地元まちづくり協議会や市民団体が主体となったイベントの開催を働きかける。
	学校における環境学習の充実	教育支援G	環境創造G	生活科・総合的な学習や社会科等での学習に加え、各学校・地域にて、地域と協働した活動（清掃活動、花の栽培など）や、保護者との環境に関する学習・活動に取り組む。	生活科・総合的な学習や社会科等での学習に加え、各学校・地域にて、地域と協働した活動（清掃活動、花の栽培など）や、保護者との環境に関する学習・活動に取り組んだ。	今後も地域や保護者と協働した取り組みを継続し、学校環境デーの取り組みと交え、地域環境に関する意識の向上を図る。	生活科・総合的な学習や社会科等での学習に加え、各学校・地域にて、地域と協働した活動（清掃活動、花の栽培など）や、保護者との環境に関する学習・活動に取り組む。
	かめやま環境市民大学を継承した「かめやま市民大学・キラリ」の開校	環境創造G	総合環境研究センター	平成28年度において、本センターの事業の方向性等について検証し、亀山市民大学キラリについては生涯学習面からの再構築を行うこととし、平成29年度の事業については亀山市民大学キラリの講座は行わず、環境講演会を開催することとした。	亀山市総合環境研究センターにおける調査研究成果発表及び環境寄席を主な内容とする環境講演会を11月25日（土）に開催した。	引き続き、亀山市総合環境研究センターと協働し、環境教育を推進していく必要がある。	平成30年度においても亀山市総合環境研究センターと協働し、環境講演会を開催し、環境教育を推進する。
③地球環境に配慮した文化活動の推進	既存の組織を活用した、市民、事業者、行政のネットワークによる地球温暖化対策の推進	環境創造G		引き続き、三重県地球温暖化防止活動推進センター、及び推進員と協力し、温暖化防止を推進させる啓発、周知を行う。また、推進員が所属する三重県地球温暖化防止活動推進センターとも情報共有し、より良い啓発・周知の方法を検討する。	三重県地球温暖化防止対策推進員【亀山市：3名】とともに、春の里山公園イベントにて地球温暖化防止啓発のためのクイズ大会及びウォークラリーを実施した。クイズ等参加者：450人（里山春イベント 約450人）	地球温暖化防止は、成果が見えづらく、市民が実感しにくいことから、各主体と連携を取りながら、いかにして温暖化防止行動に繋がっていくか啓発方法を検討する必要がある。	引き続き、三重県地球温暖化防止活動推進センター、及び推進員と協力し、温暖化防止を推進させる啓発、周知を行う。環境活動ポイント制度（AKP）を取り入れた活動を行う。また、推進員が所属する三重県地球温暖化防止活動推進センターとも情報共有し、より良い啓発・周知の方法を検討する。
	情報発信をはじめとする、環境保全の意識を高める取り組みの推進	環境創造G	亀山市地区衛生組織連合会	市民団体と連携し、引き続き実施していく（平成29年度もクリーン作戦を実施予定）	亀山市地区衛生組織連合会と協働で、クリーン作戦を実施し、清掃活動と犬の飼育への啓発活動を行った。○実施箇所：駅周辺及び市内4店舗 ○参加人数：127名	より環境保全や環境美化への意識の高揚を図るため、今後も継続・効果的な啓発方法の検討を行い事業を実施していく必要がある。	市民団体と連携し、引き続き実施していく（平成30年度もクリーン作戦を実施予定）

(6) 次世代を担う人づくり

施策項目	施策の内容	担当G	関連部署・関連団体	平成29年度の計画（具体的な取り組み内容）	(1) 平成29年度の実績	(2) 今後の課題	(3) 平成30年度の計画（具体的な取り組み内容）
①学校における文化芸術鑑賞機会の充実	子どもたちが本物の文化芸術に直に触れることのできる機会の提供	教育支援G	(公財) 亀山市地域社会振興会	成長期にある児童生徒に優れた音楽、伝統文化を鑑賞させる機会を持つため、関係部局との連携を図りつつ、生徒の実態に合った演奏者の選定等を行っていく。	小中音楽会では、コーラスユニット「うたものがたり」を招待演奏として開催した。	児童生徒の発達段階を踏まえつつ、地域で文化・芸術的な活動、芸能活動等を行っている方々を活かした取組をすすめていく必要がある。	成長期にある児童生徒に優れた音楽、伝統文化を鑑賞させる機会を持つため、関係部局との連携を図りつつ、生徒の実態に合った演奏者の選定等を行っていく。
	学校と文化会館などとの連携によるアウトリーチ活動の拡充	教育支援G	(公財) 亀山市地域社会振興会	文化会館との連携により、小中学校に音楽の外部講師を派遣し、児童生徒の歌唱力、表現力の向上を図る。	文化会館との連携により、全小中学校に、音楽の外部講師を派遣し、歌唱指導を実施した。	児童生徒の歌唱力、表現力を高めるために、今後も継続していく必要がある。	文化会館との連携により、小中学校に音楽の外部講師を派遣し、児童生徒の歌唱力、表現力の向上を図る。
	地域で活動する芸術家や周辺の大学、高等学校などの協力による、優れた文化芸術を鑑賞する機会の充実	教育支援G	社会教育G	地域の方々の協力のもと、校内展示などに取り組むと共に、児童が直接鑑賞できる機会の設定に努めていく。	総合的な学習、教科学習、クラブ活動、委員会活動等に、地域の方々を招聘し、米や野菜作り、花の栽培、防災マップづくりなどの活動を行った。また、かんこやお囃子等の伝統文化の体験活動も実施した。	地域の方々の作品を展示したり、児童が直接展示会に行つて鑑賞できる機会などの設定の工夫が必要である。	地域の方々の協力のもと、校内展示などに取り組むと共に、児童が直接鑑賞できる機会の設定に努めていく。
②創作・鑑賞活動の充実	学校における音楽や書写、図画工作、美術などの学習の充実	教育支援G	社会教育G	学力向上推進計画に基づき教職員の指導力向上を図るため、教職員の実態やニーズにあった研修講座を実施するとともに、校内研修の充実のため、外部講師を各校に派遣する。	教職員の授業力向上、児童生徒理解のため等の研修講座を実施した。また、合唱指導等のための外部講師を派遣した。	教職員の実態やニーズにあった研修講座の実施、外部講師を各校に派遣する必要がある。	学力向上推進計画に基づき教職員の指導力向上を図るため、教職員の実態やニーズにあった研修講座を実施するとともに、校内研修の充実のため、外部講師を各校に派遣する。
	子どもたちが日頃の創作活動の成果を発表し、鑑賞し合う機会の提供	教育支援G	(公財) 亀山市地域社会振興会 自治会	「亀山市小中学校音楽会」を実施するとともに、演奏家を招いて音楽を鑑賞する場を設定する。また、「亀山市児童生徒図工・美術展」「亀山市児童生徒書写展」を実施する。	日頃の学習の成果を発表し、鑑賞し合う場として「亀山市小中学校音楽会」を実施した。また、「亀山市児童生徒図工・美術展」「亀山市児童生徒書写展」を実施し、小中学校の全児童生徒が参加した。	今後も継続して「亀山市小中学校音楽会」「亀山市児童生徒図工・美術展」「亀山市児童生徒書写展」を実施するとともに、芸術鑑賞の場として設定していく必要がある。	「亀山市小中学校音楽会」を実施するとともに、演奏家を招いて音楽を鑑賞する場を設定する。また、「亀山市児童生徒図工・美術展」「亀山市児童生徒書写展」を実施する。
③郷土学習の充実	学校と歴史博物館、図書館などとの連携による郷土学習の充実	教育支援G	歴史博物館	歴史博物館との連携を強め、歴史博物館の持つ資源や地域学習支援事業を活用した学習を進めていく。	社会見学や総合的な学習の時間等に児童・生徒が歴史博物館を訪問したり、学芸員が学校を訪れたりしながら、亀山市の歴史や文化を学習した。また、各学校において、社会科など各教科の授業等で、歴史博物館の資料を活用し、子どもの学習意欲や理解度の向上を図る取組を行った。	今後も歴史博物館との連携を強め、歴史博物館の持つ資源をより活かした学習を進めていく。	歴史博物館との連携を強め、歴史博物館の持つ資源や地域学習支援事業を活用した学習を進めていく。
		図書館		各室に協力を依頼し、郷土資料の充実を図る。また利用者からのレファレンスについては、司書を中心に随時対応する。	市が発行する各種分野別計画等の資料を、各関係室から提供してもらった。	各課が発行する各種分野別計画等の行政資料や地域で開催される伝統行事等のチラシなどを収集保存していく。	行政資料や地域資料を収集保存するための行程を検討する。また、レファレンスについては、司書を中心に随時対応をする。
	郷土の自然や歴史、産業、伝統文化などについて、生きた学習ができるように、ゲストティーチャーや学習ボランティアの活用促進	教育支援G	社会教育G	今後も、総合的な学習の時間、教科学習等で、地域の豊かな人材の活用を図る。地域との連携の中で、新たなゲストティーチャーやボランティアの方の協力を得ていけるようにする。	総合的な学習、教科学習、クラブ活動、委員会活動等に、地域の方々を招聘し、米や野菜作り、花の栽培、防災マップづくりなどの活動を行った。また、かんこやお囃子等の伝統文化の体験活動も実施した。	学校行事や教科学習の目的に合ったゲストティーチャーやボランティアの方の確保と、内容の充実を図る必要がある。	今後も、総合的な学習の時間、教科学習等で、地域の豊かな人材の活用を図る。地域との連携の中で、新たなゲストティーチャーやボランティアの方の協力を得ていけるようにする。
	展示やスクールミュージアムによる学校教育支援	教育支援G	社会教育G	可能な限りで、地域の方々の作品を展示し、児童が鑑賞できるようにしていく。	学校を会場として開催する文化祭において、また、地域のコミュニティに、地域の方々の作品を展示し、児童が鑑賞することができた。	今後も、可能な限りで、地域の方々の作品を展示し、児童が鑑賞できるようにしていく必要がある。	可能な限りで、地域の方々の作品を展示し、児童が鑑賞できるようにしていく。
	地域の伝統工芸品や特産物などに身近に触れ、実際につくる体験ができる機会の提供	教育支援G	社会教育G まちなみ文化財G 農業G	郷土の文化や産業に関する施設について、教員も興味を持つとともに、事前指導を行う。また、地域の方と連携を深め、学習内容に応じて様々な方に協力を依頼できるような関係づくりを進める。	社会見学で各種施設を訪問し、亀山市の歴史・文化・産業について目で見て体験することにより学習することができた。また、ゲストティーチャーを招き、専門的な立場からお話いただくとともに、生き方や思いについても学ぶことができた。	郷土の文化や産業に関する施設について、教員も学びを深め知識を得ていくことや、学習内容に合致するようなゲストティーチャーを探していくことが必要である。	郷土の文化や産業に関する施設について、教員も興味を持つとともに、事前指導を行う。また、地域の方と連携を深め、学習内容に応じて様々な方に協力を依頼できるような関係づくりを進める。
④家庭教育における文化芸術の振興	家庭教育講座や広報啓発活動などの充実	教育支援G	社会教育G 図書館	幼稚園・小学校での「ファミリー読書リレー」を継続実施し、家庭での読書習慣の定着を図る。対象となる本の追加について検討していく。	幼稚園・小学校で「ファミリー読書リレー」に取り組み、688家族が参加した。リレーバッグを希望する学校、幼稚園に新規給付を行った。各校において、図書だより等を発行し、家庭への情報発信を行った。	今後も「ファミリー読書リレー」を継続実施し、家庭での読書習慣の定着を高める。	幼稚園・小学校での「ファミリー読書リレー」を継続実施し、家庭での読書習慣の定着を図る。対象となる本の追加について検討していく。
		教育支援G	社会教育G 図書館	ファミリー読書リレーの継続実施。各校の取組についての情報共有と、システム利用についての研修会の実施。	学校図書館支援事業において、学校図書館の環境整備を行うとともに、ファミリー読書リレーを実施した。また、各校において、朝の読書タイムや、読み聞かせ活動など、日常的な読書指導に取り組んだ。	図書館情報システムを使った効果的な読書指導のあり方の研究実践を進める。	ファミリー読書リレーを継続して実施する。各校の取組についての情報共有を行い、システム利用についての研修会の実施する。
	子どもの読書習慣の定着と親子の触れ合いを深める活動の推進	図書館	市民活動団体	市民活動団体と協力して、絵本や紙芝居等の読み聞かせを行うことで、子どもの読書へのきっかけを作り、読書習慣の定着を図る。さらに、親子で一緒に作品を作り、一緒に過ごす時間を持つことで、親子のふれあいを深める機会を作る。また、行事の周知をチラシ・ポスター等で事前に掲示する。	子どもが読書に興味を持つきっかけになるよう、人形劇やおはなし会等のイベントを実施した。図書館イベント参加人数 1,289人	館内での取り組みだけでなく、関係機関と連携をしながら館外での取組みも増やしていく。	図書館ボランティア団体と協力しながら、図書館内だけでなく、他の公共施設での取組みを行うことで、絆を深める機会を設ける。

(7) 生活文化の充実

施策項目	施策の内容	担当G	関連部署・関連団体	平成29年度の計画（具体的な取り組み内容）	(1) 平成29年度の実績	(2) 今後の課題	(3) 平成30年度の計画（具体的な取り組み内容）
①暮らしに根づいた文化の推進	家族の時間づくりなどを活用し、親子の絆、地域の絆を深める機会の充実	文化共生G	商工業・地域交通G	・家族の時間づくりの趣旨を継承しつつ、ワーク・ライフ・バランスを推進する事業へと変更し、実施していく。	11月11日から11月26日までの16日間を亀山市ワーク・ライフ・バランス週間として位置付け、社会教育施設等の無料開放を行い、家族で楽しんでもらう機会を増やした。	一人ひとりが地域活動や、家族とのふれあいなど、ライフステージやそれぞれの価値観に応じた生活がおくれるように、ワーク・ライフ・バランスの推進を進めていく必要がある。	ワーク・ライフ・バランス週間に集中して、社会教育施設等の無料開放や講演会等を行い、市民や事業所へ啓発を行う。
		図書館	市民活動団体	市民活動団体と協力して、人形劇やおはなし会を開催し、親子や地域の絆を深める機会を作る。また、行事の周知をチラシ・ポスター等で事前に掲示する。	図書館ボランティア団体と協力して、人形劇やおはなし会等を開催することで、家族や地域の絆を深める機会につながった。	図書館ホームページや広報かめやま等を通して取り組みを周知し、フェイスブックで開催時の様子を掲載しているものの、イベント以外の来館にはつなげていない。	図書館ボランティア団体と協力しながら、図書館内だけでなく、他の公共施設での取組みを行うことで、絆を深める機会を設ける。
	学校の総合的な学習の時間などを活用し、子どもたちが生活文化に触れ、親しめる機会の充実	教育支援G		生活科・総合的な学習の時間、社会科などでの学習時に、体験活動を重視し、生活文化に触れる機会を計画的に設定する。	生活科や総合的な学習の時間、社会科等の学習時に、家族や地域の方に聞き取りを行うなどの調べ学習をした。また、実際に体験することにより、生活文化に触れる機会を設定した。さらに、土曜授業等では地域行事等と連携した体験活動に取り組んだ。	今後も、各校での取組を継続するため、子どもの実態や課題、活動のねらいなどを共有する必要がある。	生活科・総合的な学習の時間、社会科などでの学習時に、体験活動を重視し、生活文化に触れる機会を計画的に設定する。
	民話や言い伝え、わらべうた、方言などについて、冊子や音声などによる記録化の推進	歴史博物館		まちなみ文化財室主体で行う心形刀流関連イベントの開催補助を行う。	まちなみ文化財室主体で行われた心形刀流演武見学会において、会場準備等の補助を行った。	引き続き、まちなみ文化財Gにより開催される心形刀流関連イベントに協力していく。	まちなみ文化財G主体で行う心形刀流関連イベントの開催補助を行う。
	生活の知恵や昔の遊び、まちの伝説や風習など暮らしの中で受け継がれてきた文化の紹介と支援	文化共生G 歴史博物館	教育支援G	亀山西小学校で移動展示、亀山中学校でミニ展示を行う。	かめやま文化年2017において、市内に残る歴史的な道である金王道の名称の由来となった「渋谷金丸」をテーマに講演を実施した。 平成29年6月17日に亀山中学校でミニ展示、平成30年2月2日に亀山西小学校で「歴史博物館 in 亀山西小学校」を開催した。	地域で培われてきた文化などを取り上げる機会を増やしていく必要がある。 移動展示未実施の学校においても行えるよう、校長会等、各学校が集まる場でのPRを行う。	かめやま文化年2020の事業検討において、地域で培われてきた文化などを取り上げる等考慮する。 関小学校で移動展示を行う。また、小学3年生の「昔のくらし」の課程に合わせて「昔の道具」の展示を行う。
②食文化の継承、創造	地元の安心・安全な食材をじっくり味わう「スローフード」運動の推進	健康づくりG	亀山市食生活改善推進協議会	食生活改善推進協議会と連携し、市内で採れた食材をメニューに加え、日常生活において、地元の安心・安全な食材の利用へとつなげる。（地元食材を使用したメニュー+1） また、幼児期における食生活についての情報提供を継続的に行う。	食生活改善推進協議会の協力のもと、健康づくりのための料理講習会（5回、95人）と地域での料理講習会（40回、434人）を開催した。健康づくりのための料理講習会については、市ホームページにレシピを掲載し、安心・安全な食生活の推進につなげた。 また、幼児健康診査時に食生活についてのリーフレットを配布（24回、909人）し、幼児期における食生活の重要性を周知した。	「健康づくりの講習会」は参加者が固定化してきていることが課題。 また、幼児期からの食生活の重要性を継続的に周知することが必要である。	食生活改善推進協議会と連携し、市内で採れた食材をメニューに加え、日常生活において、地元の安心・安全な食材の利用へとつなげる。（地元食材を使用したメニュー+1） また、幼児期における食生活についての情報提供を継続的に行う。
	郷土料理や行事食、食習慣を食文化として伝達する取り組みの充実	健康づくりG	亀山市食生活改善推進協議会	食生活改善推進協議会と連携し、市内で採れた食材をメニューに加え、日常生活において、地元の安心・安全な食材の利用へとつなげる。（地元食材を使用したメニュー+1）	食生活改善推進協議会会員による健康づくりのための料理講習会（5回、95人）や地域での料理講習会（40回、434人）を開催した。また、ホームページにレシピを掲載し、安心・安全な食生活の推進につなげた。	「健康づくりの講習会」は参加者が固定化してきていることが課題。	食生活改善推進協議会と連携し、市内で採れた食材をメニューに加え、日常生活において、地元の安心・安全な食材の利用へとつなげる。（地元食材を使用したメニュー+1）
		社会教育G		平成26年度より中央公民館講座により実施			
	保育所や学校において、旬の食材や行事食などを取り入れた「かめやまっ子」給食の実施	施設・保健給食G		農政室との連携や委託業者との協議を継続し、「かめやまっ子給食」を年20回、「地物が一番みえの日」を年12回実施する。	自校方式及びセンター方式の給食において、市内産・県内産の食材を使用した「かめやまっ子給食」を年20回実施した。また、デリバリー方式の給食においては、県内産の食材を使用した「地物が一番みえの日」を年12回実施した。	今後も定期的に市内産・県内産食材を給食に取り入れることができるよう、産業振興課農業Gと連携し、生産者や納入業者との調整や委託業者との協議を継続するとともに、地場産物を活用したメニューを検討する必要がある。	産業振興課農業Gとの連携や委託業者との協議を継続し、「かめやまっ子給食」を年20回、「地物が一番みえの日」を年12回実施する。
		子ども総務G		地産地消や旬の食材を重視した給食を提供する。各家庭へ食育だよりを発行し、継続して食への意識啓発を図る。	可能な限り旬の食材を献立に取り入れた。地元又は地元に近い産地の食材を納入するよう業者に依頼した。 旬の食材や食生活の重要性などについて食育だよりに掲載し家庭での意識向上を促した。	旬の食材や地産地消の重要性などについて、継続的な意識啓発を図ることが必要である。	旬の食材を用いた献立作成を心がけ、可能な限り地産地消や行事食の提供を推進する。各家庭へ食育だよりを発行し、継続して食への意識啓発を図る。
	食文化の伝承及び創造に関する市民の主体的な活動の支援	健康づくりG	亀山市食生活改善推進協議会	食生活改善推進協議会と連携し、市内で採れた食材をメニューに加え、日常生活において、地元の安心・安全な食材の利用へとつなげる。（地元食材を使用したメニュー+1）	食生活改善推進協議会会員による健康づくりのための料理講習会（5回、95人）や地域での料理講習会（40回、434人）を開催した。また、ホームページにレシピを掲載し、安心・安全な食生活の推進につなげた。	「健康づくりの講習会」は参加者が固定化してきていることが課題。	食生活改善推進協議会と連携し、市内で採れた食材をメニューに加え、日常生活において、地元の安心・安全な食材の利用へとつなげる。（地元食材を使用したメニュー+1）
地域まちづくりG		亀山市自治会連合会	亀山市自治会連合会は、平成29年度においても「食の祭典」の開催を計画し、市内外の企業からの参加も予定している。引き続きイベントを支援することで、各自治会や各種団体の主体的な活動を支援していく。	自治会連合会主催の第9回「食の祭典」を開催し、地域まちづくり協議会連絡会議や婦人会連絡協議会など各種団体の協賛を得て多くの来場者で賑わった。また、継続開催することで、市民に定着したイベントとして住民相互の交流が図られた。	「食の祭典」の事業経費は市が交付する自治会連合会補助金に依存しており、イベントの規模や内容は補助金額に左右されるが、実施する限り支援していく。	亀山市自治会連合会は、平成30年度においても「食の祭典」の開催を計画し、市内外の企業からの参加も予定している。引き続きイベントを支援することで、各自治会や各種団体の主体的な活動を支援していく。	
③健康文化の推進	地区コミュニティなどでの健康づくり活動の促進	高齢者支援G	地区コミュニティ	自主活動グループとなり活動している団体への支援方法について検討し、実施する。	講師を派遣するなど、自主活動グループ活動の支援を行った。	活動を継続していくためにも、参加者を増やしていく必要がある。	引き続き講師を派遣して支援を行うとともに、活動の普及啓発に努める。
		健康づくりG	地区コミュニティ	住民が主体となった地域での健康づくり活動の輪が広がるよう、地域の状況を確認しながら、必要に応じて支援していく。	健康づくり応援隊養成講座を修了した地区におけるフォロー教室を行った。（屋生地区2回、神辺地区2回、野登地区2回）	健康づくり応援隊養成講座終了後の地域については、継続した活動を行っていくためには支援が必要である。	住民が主体となった地域での健康づくり活動の輪が広がるよう、地域の状況を確認しながら、必要に応じて支援していく。
	歴史探索などを取り入れたウォーキングの普及	まちなみ文化財G	亀山市観光協会 自治会 地区コミュニティ	歴史探索等を取り入れたウォーキングに職員を講師として派遣し、ウォーキングイベントの充実を図る。	金王道ウォーキングの開催にあたり、地元案内人の勉強会に職員を講師として派遣するなど、イベント開催の支援を行った。	ウォーキングイベントの開催を市内各地に広げる。	歴史探索等のウォーキングに職員を講師として派遣し、ウォーキングイベントの充実を図る。
		健康づくりG		ウォーキングの普及啓発について検討する。	健康増進普及月間において、ウォーキングの講座を設け、啓発を行った。	講座への参加をきっかけに、継続した活動につながるよう、引き続き、地域での啓発が必要である。	ウォーキングの普及啓発について検討する。
健康増進や体力づくりのためのスポーツイベントや教室などの機会の充実	スポーツ推進G		市内の各種スポーツ団体や、運動施設指定管理者の取組みを支援し、誰もが気軽に取り組めて、継続できるスポーツや運動の機会の提供を促す。	ニュースポーツの普及のため、ニュースポーツ大会を実施した。また、総合型地域スポーツクラブについては、事業の広報支援等を行った。	健康文化の推進のため、市内の各種団体と連携しながら、事業に取り組む必要がある。	市内の各種スポーツ団体や、運動施設指定管理者の取組みを支援し、誰もが気軽に取り組めて、継続できるスポーツや運動の機会の提供を促す。	

(8) データベース化と情報発信

施策項目	施策の内容	担当G	関連部署・関連団体	平成29年度の計画（具体的な取り組み内容）	(1) 平成29年度の実績	(2) 今後の課題	(3) 平成30年度の計画（具体的な取り組み内容）
①情報通信ネットワークを利用した文化情報の発信	文化情報の発信に地域住民の意見が反映できる環境づくりの推進	情報統計G		亀山市ICT利活用計画に係る実施計画の中でネットワークの形態やスケジュールについて示します。	地域まちづくり協議会と市の間、さらには各地域まちづくり協議会の間で、インターネットを通じて相互情報交流ができる仕組みの構築について、亀山市ICT利活用計画実施計画に示した。	まちづくり協議会の現状に合ったアプリケーションの選定や運用方法を検討する必要がある。	まちづくり協議会の現状に合ったアプリケーションの選定や運用方法を検討する。
	ケーブルテレビなどを活用した文化情報の発信	広報秘書G	文化共生G	かめやま文化年2017を中心として、文化情報を行政情報番組で放送するとともに、伊賀市、甲賀市との番組交換により他市でも放送する。	行政情報番組「マイタウンかめやま」を年間53番組制作した。かめやま文化年2017の取り組みとして開催されたイベント11件をニュースとして放送した。また、かめやま文化年の周知及び高梁市との歴史文化交流事業への参加促進の2番組を制作した。年間を通じて集約した映像をまとめて、かめやま文化年2017特集番組を制作し、ホームページでも公開を行った。いこが連携の取り組みとしては、花しょうぶまつり、亀山トリエンナーレ、関宿街道まつり、東海道のおひなさまのイベント告知番組を両市で放送した。	市民に親しまれる番組づくりを行うため、旬の話題や市民参加型のイベント情報、また市から特にお知らせしたい事項など、ニュースソースの的確な選定が必要である。いこが連携における番組交換に向けて、収録日程や放送開始日など、両市との連絡調整が必要である。	市民に親しまれる番組づくりに向けて、高校総体ウエイトリフティング競技大会が本市で開催されることから、高校生や若者にフォーカスした行政情報番組の制作を行う。本市のイベントや文化の情報を市外へ発信するとともに、他市の情報を知ることにより新たな交流を促すため、伊賀市、甲賀市との番組交換を継続して行う。
②文化活動情報の共有体制の構築	市ホームページなどを通じた各文化施設におけるイベント案内や利用案内などの情報発信の充実	広報秘書G	文化共生G	フェイスブック、広報紙の記事から、さらにホームページで詳しく知ることができる記事の構成に注力する。	フェイスブックや広報記事掲載時に、ホームページでの詳細情報も発信いただくよう働きかけた。また、各室からホームページ等更新の決裁が回ってこないイベント等については、当室から掲載を促した。	イベントカレンダーの活用も促進し、イベント情報の発信を更に充実させる必要がある。	ホームページ研修等において、各課に積極的な情報発信を促すとともに、イベントカレンダー機能の周知を図る。
	高齢者、障がい者などに分かりやすい文化情報の提供	広報秘書G	文化共生G	ホームページ全ファイル解析結果をもとに、ページの修正に取り組む。	7月に「ホームページ。シティプロモーションおよび広報研修」を開催（55人参加）し、アクセシビリティに関する意識向上を図るとともに、ページ修正を促した。	修正状況を把握できていないことから、進捗管理が必要である。また、担当者も変わっていく中、アクセシビリティに関する継続的な研修が必要である。	引き続き、ホームページ全ファイル解析結果（H28）を踏まえ、ページの修正に取り組む。また、ホームページ（アクセシビリティ）研修を開催する。
③地域の文化資産のデータベース化と活用	地域の文化資産を電子データ化した先駆的なデジタル市史の積極的な活用	歴史博物館		市内小中学校の歴史ページを完成させる。	一部ページの原稿案は作成されたが、ホームページの作成・公開には至らなかった。	受贈された資料に、データベース化が未完了のものがあるため、調査、データ化の必要がある。	調査員を活用し、資料の調査、データベース化を行う。
	地域に伝わる文化財や伝統芸能などの情報のデータベース化や、画像での保存、無形文化資産の映像による保存など電子データ化の推進	まちなみ文化財G		地域に伝わる文化財や伝統芸能などで、かつて地元で記録され残されている映像記録の発掘を行う。	作成した記録映像を歴史博物館で上映するなど普及啓発に努めた。	過去に作成した記録映像の普及・周知と、後継者育成のために活用していただく必要がある。	地域に伝わる文化財や伝統芸能などで、かつて地元で記録され残されている映像記録の発掘を行う。
	地域の文化活動の紹介や文化人、文化資源など、地域の身近な情報のデータベース化と活用促進	文化共生G		地域で行われている文化活動について情報収集するとともに、その活動内容や実績について、市内外に発信する手法を検討する。	地域で行われている文化活動について情報収集を行い、かめやま文化年2017の関連事業として実施し、記録誌としてまとめた。	地域の文化に関する情報のデータベース化や発信方法について、検討する必要がある。	引き続き、地域で行われている文化活動について情報収集するとともに、その活動内容や実績について、市内外に発信する手法を検討する。

(9) 文化と産業経済の融合

施策項目	施策の内容	担当G	関連部署・関連団体	平成29年度の計画（具体的な取り組み内容）	(1) 平成29年度の実績	(2) 今後の課題	(3) 平成30年度の計画（具体的な取り組み内容）
①文化関連産業の育成	「ろうそく」「亀山茶」などのブランドイメージ向上と情報発信の充実	商工業・地域交通G	亀山商工会議所 農業G	引き続き関係団体と連携を図り、様々な機会を捉え情報発信を図る。	県や関係部署等と連携し、特産品フェア（五所川原市・泉佐野市）へ出店するなど、様々な機会を捉えてPRを行った。	関係団体と連携した効果的かつ積極的な情報発信が必要である。	引き続き関係団体と連携を図り、さまざまな機会を捉えて情報発信を図る。サンシャインパークの春のイベントでは市交流自治体を招いて特産品フェアを実施予定である。
		農業G	亀山市茶業組合 亀山青空お茶まつり実行委員会	各種イベントへの亀山茶カフェの開催を通じて、広く亀山茶の消費拡大に結び付くPRを継続する。	茶業組合主催の亀山茶カフェ、亀山茶クイズ、青空お茶まつりやお茶の入れ方教室などの開催を支援し、広く亀山茶のPRを行い、お茶に関心をもってもらうよい機会となった。	亀山茶の消費拡大に結び付くための効果的なPRの強化が必要である。	各種イベントへの亀山茶カフェの開催を通じて、広く亀山茶の消費拡大に結び付くPRを継続する。
	「環境にやさしいものづくり」など、亀山市に根づいた先端技術産業の育成	商工業・地域交通G	亀山商工会議所	市や支援機関が行う支援事業や助成制度について、様々な機会を捉え、関係機関とも連携し、効果的な情報発信を行う。	市内中小企業を対象とした専門家による経営支援事業や設備投資にかかる資金繰り支援制度などにより、企業の事業活動を支援した。新たな支援制度として創業資金利子補給制度を設立した。	事業者へ効果的な情報発信を行う必要がある。	市や支援機関が行う支援事業や助成制度について、様々な機会を捉え、関係機関とも連携し、効果的な情報発信を行う。
②文化を生かした産業経済活動	地域産材の利用や森林関係団体などとの連携による「木造文化」の保存、普及	森林林業G	住まい推進G	引き続き「市公共建築物等木材利用方針」に基づき、関連部署と連携して地域材を利用した公共施設の木造化・木質化を推進する。また、一般建築物への地域材利用を普及するため、亀山木材産業協同組合と協働して木材フェアを開催しPRに努める。	「市公共建築物等木材利用方針」に基づき、公共施設の木造化・木質化が図られるよう、関連部署と木材の仕様について提案した。また、木の良さや木材の利用を市民や児童に伝えるため、出前講座や木育教室を市内5小学校において開催した。開催回数：5回、参加者数：460名	広く市民に木の良さや木材の利用を伝えるためには、出前講座や木育教室のみでは困難である。	引き続き、公共施設の木造化・木質化が図られるよう、関連部署と連携して推進する。また、出前講座や木育教室を引き続き実施するとともに、市広報や市ホームページへの掲載による啓発や木材関係団体と協働した新たな啓発活動をさらに検討する。
	職人の技によって支えられてきた伝統工芸、食文化などの保存、育成	まちなみ文化財G	NPO法人亀山文化資産研究会	NPO法人「亀山文化資産研究会」の活動を支援する。伝統的建造物群保存修理修景事業等を継続して実施する。	NPO法人「亀山文化資産研究会」の勉強会に職員を講師として派遣するなど、活動支援を行った。関宿における伝統的建造物群保存修理修景事業を通して、建築士・技能者の養成を行った。	活動支援を継続的に行うとともに、活動の場である伝統的建造物群保存修理修景事業等を継続的に実施していく必要がある。	NPO法人「亀山文化資産研究会」の活動を支援する。伝統的建造物群保存修理修景事業等を継続して実施する。
	「企業メセナ」など民間の支援活動の促進	商工業・地域交通G	文化共生G	引き続き研究を行う。	事例収集を行った。	引き続き研究を行う。	引き続き研究を行う。
空き店舗等を活用した展覧会などの開催支援	文化共生G	商工業・地域交通G	文化共生G	関係団体と連携し、空き店舗等を活用したまちづくりの取組を支援する。	東町商店街振興組合と連携し、東海道のおひなさま等による、空き店舗等を活用したまちづくりの取組を支援した。また空き店舗等活用支援事業に関する補助金制度の設計等を検討した。	関係団体と継続した連携し、空き店舗等を活用した事業に関する支援体制を確立していく必要がある。	引き続き関係団体と連携し、空き店舗等活用支援事業補助金制度を確立し、空き店舗等を活用したまちづくりとにぎわいの創出を支援する。
		文化共生G	商工業・地域交通G	開催地区・地域住民との連携や市内全体への浸透を図るよう、情報発信や地域との調整等について実行委員会に協力・支援を行う。	かめやま文化年2017において、キーワードの「つながる」を意識して地域と連携し各事業に取り組んだ。	開催地区・地域住民との連携や市内全体への浸透が不足している点が課題である。	開催地区・地域住民との連携や市内全体への浸透を図るよう、情報発信や地域との調整等について実行委員会に協力・支援を行う。
③まちづくり観光の推進	まちづくり観光のマネジメントの推進	観光交流G	亀山市観光協会 亀山商工会議所	地域団体等の活動支援に繋がるツアー内容になるように亀山市観光協会と協議を行っていく。	亀山市観光協会を主体とし、地域の遺産や活動に触れてもらえ、地域団体の活動支援に繋がるツアーを2回実施し、延べ28名の参加があった。 ・「古地図で歩く東海道」・・・15名 ・「加太、秋の産品と鉄道遺産を巡る」・・・13名	亀山市観光協会を主体とし、地域団体等の活動支援に繋がるツアーを開催していく。	地域団体等の活動支援に繋がるツアー内容になるように亀山市観光協会と協議を行ない、多数参加いただくためHPにモデルコースの掲載を行なう。
	JR亀山駅を中心とした「鉄道のまち亀山」の発信と、それらの歴史や資産を生かしたまちづくりの推進	都市計画G	亀山駅周辺まちづくり協議会	JR亀山駅周辺のにぎわいや活性化を図り、利便性や安全性を向上させるため、亀山駅周辺整備事業を推進する。	亀山駅周辺整備事業の再開発に向けた準備会が5月に設立されたことから、準備会の基本設計や資金計画等の作成のための支援を行うとともに、必要となる都市計画決定を3月に行った。	再開発事業の円滑な推進のため、準備会の組合設立の支援や公共的機能の検討を進める必要がある。	亀山駅周辺整備事業として、設立された組合に対して所定の補助金の交付や駅前広場、都市計画道路等の整備に向け、測量や補償等の支援や事業推進に取り組む。